

夜回り

山田先生

西陵商ラグビー部元監督



▶ 14 ◀



▼山田耕二(やまだ・こうじ) 名古屋市中区生まれの73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢初優勝に導く。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務める。

合宿や遠征の時に必ずやつていたことがある。入浴時間になると、私は真っ先に大浴場へ向かった。生徒たちと言

いう言葉がある。一緒に湯船につかっていると、不思議と本音でいろんなことを話せる。

葉を交わしながら、入浴時間
終了まで、のぼせてゆでダコ
になってしまいそうになりな
がら、じつと湯船につかって
いたのだ。

生徒たちの間では「実は今こんなことで悩んでいて…」、「もういえばお前、ここのあいだ○○に告白されたそうじゃないか！」などさまざ

そういつた彼らの本音をじつと聞いたり、時には会話に混ざったり。彼らの心情に寄り添い、一体となることで、より強い絆が生まれる。そう私は思っている。試合でも「自分のため」だけでなく「みんなのため、監督のため」といった気持ちが湧き、より強い力を發揮することが

もう一つ。「太ももがしつかりしてきた」、「胸板が見違えるように厚くなつてきた」といった日々のトレーニングの成果を一目で確認できる。努力の成果を褒めてやれれば、彼らはさらにやる気になってくれる。

りしていれば、それが確認できる。「あしたは肘を突く練習は避けよう」と臨機応変に対応することも可能だつた。

風呂にじっくり入つて「裸の付き合い」

箸の持ち方の話でも書いたが、これも相手チームの分析に使える情報の一つだった。同宿で一緒に風呂に入れば、どの選手がどこにテープを巻いているかなど、把握できるのだ。相手の戦力に体の状態という情報を加えた上で、作戦を練り直す。それができれば、試合を優位に進めることもできるのだ。